



# 日本女医学会誌

復刊第 184 号  
2005 年 10 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### 女性医師への支援を 有効に活用しましょう

会長 橋本葉子

郵政民営化法案が参議院で否決されるやいなや、小泉総理は衆議院の解散に踏み切り、4年前のニューヨークでのテロ事件の日に合わせてかのよう  
に9月11日を投票日とし、激戦を展開しましたが、開票の結果は自由民主党の圧勝となりました。特に私が驚いたのは、東京都小選挙区25区中23区の当選者は自民党であったことです。従来の選挙では起り得ないことでした。小泉総理の自民党リニューアルが功を奏したのでしょうか。小泉劇場と呼ばれた手法が功を奏したのでしょうか。与党で2/3議席を確保したことは、ほとんどの法案は可決される可能性を意味します。医療行政に関する問題も注視しなければならぬと考えます。

現在、女性医師数が増加し、ここ数年の国家試験合格率は33%を超えています。この女性医師の増加が逆に医師の需給問題の中でクローズアップされてきたのは皮肉なことです。それは20歳代後半から35歳くらいまでの女性医師の就業率が低下することにより需給バランスが崩れると認識される面があるからです。そのため、厚生労働省も出来るだけ女性医師が未就業にならなくて済むような対策を講ぜざるを得ないようになりました。

特に育児環境の整備には少子化対策も含めて力を入れております。日本女医学会も昨年度から独立行政法人福祉医療機構の子育て支援基金の助成を得て、育児環境整備支援事業を展開しておりますが、少しでも若い女性医師が医療現場を離れなくても済むよう、お手伝いが出来ればと思っております。

また、実際に少しでも医療現場を離れた医師が現場復帰を望む時には、日進月歩の医療界では再研修が必須であります。私は大分前からこの再研修の場を東京女子医科大学に求めておりましたが、なかなか実現いたしません。しかし、近い将来、必ず実現するものと信じております。

9月22日の朝日新聞夕刊に、女性医師復帰支援のための「女性医師バンク」(仮称)を東京と大阪に設けるために、厚生労働省が2006年度予算の概算要求に盛り込んだとの報道がありました。日本女医学会は独自の人材バンクを持っておりますが、運用面ではまだまだ不十分です。厚生労働省が作ろうとしている女性医師バンクと連絡を取りながら、女性医師の職場復帰の支援を続けたいと考えております。

このように行政もやっと女性医師の環境整備の重要性を認識してくれました。女性医師に対する強力な支援を上手に活用し、折角取得した医師免許を有効に活用する支援を日本女医学会は願っております。会員の皆様の周囲にまだ日本女医学会のことを知らない女性医師がたくさん居られると思いますので、機会がありましたら話し合いの場を持って頂きたく、宜しくお願い申し上げます。

## 日本女医学会誌 (第184号) もくじ

巻頭言	橋本葉子 /1
第24回日本女医学会学術研究助成報告	竹宮孝子、田村悦代 /2
医療制度の改革の動向と問題点	渡辺俊介 /3
日本医師会第1回男女共同参画フォーラム	
	保坂シゲリ、高橋克子 /4
国際比較文化的な日々—海外留学での生活から	矢口有乃 /6
文部科学大臣賞を受賞して	小田泰子 /7
日本生理学会男女共同参画推進委員会シンポジウムへの参加	
	山本蒔子 /8
日本女医学会副会長・加藤竺子先生に日本医師会最高優功賞	/10

支部だより	埼玉支部・吉住幸子、静岡支部・竹内静香 /11
私の大学「東北大学」	齋藤淑子 /13
書評	
『愛と至誠に生きる—女医吉岡彌生の手紙』	橋本葉子 /13
『命を見つめて—魂に寄り添った女医の物語』	(山崎倫子・岡山徹：構成) 大坪公子 /14
会員動静	/14
故・白浜光子先生を偲ぶ	丸茂皇子 /15
理事会議事録(6月、7月)	/16
各賞の推せん、助成のご案内/編集後記	/18

日本女医学会のホームページが変わりました! さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

## 第24回日本女医会学術研究助成報告

### 痙攣重積発作後に発生する 海馬細胞死における COX-2、 mPGES-1、PGE<sub>2</sub> の作用

東女医学内支部 竹宮孝子

第24回日本女医会学術研究助成を賜りました研究課題「痙攣重積発作後に発生する海馬細胞死における COX-2、mPGES-1、PGE<sub>2</sub> の作用」の研究経過を報告させていただきます。本研究は、難治性てんかんの病態に関与すると考えられる痙攣発作後の海馬神経細胞脱落（細胞死）に焦点を絞り、その神経細胞死に対して発作で誘導されてくるシクロオキシゲナーゼ-2 (COX-2)、PGE<sub>2</sub> 合成酵素 (mPGES-1) そしてプロスタグランジン E<sub>2</sub> (PGE<sub>2</sub>) が持つ作用について検討を行ったものです。

はじめに、ラットを用いて興奮性アミノ酸であるカイニン酸 (KA) を海馬内 CA3 領域へ局所注入するモデルを用いて、*in vivo* における PGE<sub>2</sub> の産生部位の特定と海馬神経細胞死における PGE<sub>2</sub> の作用について調べました。その結果、PGE<sub>2</sub> 濃度は遅発性に上昇し、48 時間後には CA3 錐体細胞の強い脱落を認めました。しかし COX-2 の選択的阻害剤はその PGE<sub>2</sub> 上昇を完全に抑制し、細胞脱落も有意に減少させました。また COX-2 遺伝子欠損マウスを用いた実験も同様の結果を示しました。これらの結果から KA 発作後に発生する神経細胞死には COX-2 によって産生される持続性の PGE<sub>2</sub> 上昇が関与すると考えられました。

次に、mPGES-1 の関与を調べました。mPGES-1 は PGE<sub>2</sub> 濃度の上昇に合わせて血管内皮細胞に COX-2 と共に発現し、mPGES-1 遺伝子欠損マウス (mPGES-1 (-/-)) ではコントロールマウスに比べ PGE<sub>2</sub> 濃度の上昇は有意に低く、細胞脱落も有意に少ないことがわかりました。

これらの結果より、痙攣発作後に血管内皮細胞で誘導される mPGES-1 が PGE<sub>2</sub> 産生の重要な合成酵素であり、血管内皮細胞で作られた PGE<sub>2</sub> が神経細胞死を増強する作用を持つことがわかりました。

この結果は脳の血管内皮細胞の新しい役割を世界で初めて示したものであり、現在、原著論文

を英文誌に投稿中です。また、研究結果の一部は『神経研究の進歩』(49 巻第 5 号、医学書院) 特集「てんかん研究の新しい展開」および Progress on prostaglandin Research (Nova Science Publishers, Inc.) に掲載予定です。

今後の研究の展開としては、マウスの海馬組織培養を用いて、神経疾患の細胞死にかかわる神経細胞、血管内皮細胞、アストロサイト間の情報伝達のメカニズムを調べていく予定です。

最後になりましたが、日本女医会会長の橋本葉子先生をはじめ、選考委員の先生方、また東京都神経研・神経薬理の山形要人先生、東京女子医大・第一生理の川上順子先生および関係各位に心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 声帯内自家脂肪注入術に対する 再生医療の応用に関する基礎研究

練馬支部 田村悦代

第24回日本女医会学術研究助成を賜り、1 年が経過致しました。ここに、その間の研究経過報告をさせていただきます。

#### [研究目的]

反回神経麻痺症例等に対する vocal rehabilitation として、声帯内脂肪注入術が行われるようになってきた。しかし、自家組織である脂肪組織は注入後の吸収等により、容量の減少がおこると言われており、その吸収率については、一定の結論が出されていない。そこで、実験動物に、注入脂肪を細胞増殖因子である塩基性線維芽細胞増殖因子とともに投与し、注入後の脂肪の減量を防止、あるいは脂肪再生の可能性の有無について検討することが目的である。

#### [方法]

実験には、雌ビーグル犬 (体重 10 ~ 13kg) を用い、注入実験の前処置として、反回神経麻痺モデルを作製した。塩基性線維芽細胞増殖因子 (basic fibroblast growth factor :bFGF) を、ゼラチン粒子に含浸させてから、採取した脂肪組織に細切したコラーゲン・スポンジと共に混ぜて注入用として手術用喉頭顕微鏡下に直達喉頭鏡を用いて、右声帯膜様部中央に 0.5ml 注入し、対照として、脂肪組織のみ

を同様の手技で、反対側声帯に同量注入した。

注入8、12週後に喉頭を摘出し、声帯膜様部中央における声帯前額断パラフィン切片にて、注入脂肪の状態を観察する。

#### 【結果】

bFGFを投与した群では、注入した脂肪組織は、明らかな炎症所見や異物反応等は伴わず、声帯筋層内に存在していた。また、これらの成熟した脂肪細胞間の結合組織内には、細胞質に脂肪滴を保有した10～20 $\mu$ m程度の小型の未熟な脂肪細胞が散在性に認められた。いっぽう、脂肪組織のみを注入したコントロール群では、残存した脂肪組織の一部に線維化が認められ、注入量に比較してその残存量は相対的に減少していた。また、bFGF投与群で見られた成熟脂肪組織間の未熟な細胞は、全く認められなかった。

#### 【結論】

今回の実験では、臨床応用に近い状況をシミュレーションする目的で、単離した脂肪前駆細胞ではなく、多くは成熟脂肪細胞からなる脂肪組織を用い、徐放のためのゼラチン粒子に含浸させた血管新生を促す適量のbFGFと、再生のための足場としてのコラーゲン・スポンジを声帯内に注入した。その結果、bFGF投与群で、組織学的に、脂肪細胞の増殖が推定される所見が得られた。

今後、本方法の応用により、声門閉鎖不全疾患に対する声帯内脂肪注入術後の容積減少の問題点が解決されることが期待された。

最後になりましたが、このような機会をお与え下さいました、日本女医会会長の橋本葉子先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに関係各位の方々に、心より御礼申し上げますとともに、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 吉岡彌生記念館・掛川市合併記念講演会

12月10日(土) 開場12:30 開演13:30  
掛川市文化会館シオーネ大ホール <聴講無料>

- 第一部 上映会「時代の先駆け 吉岡彌生伝」
- 第二部 基調講演「教育者、人間、吉岡彌生先生と」  
講師：酒井シヅ氏
- 第三部 吉岡彌生を語る  
「孫から見た吉岡彌生」吉岡博光氏  
「大伯母の手紙」鷺山さちえ氏  
「郷土の誇り吉岡彌生先生」松本洋一郎氏

お申し込み・お問い合わせは……

吉岡彌生記念館 〒437-1434 掛川市下土方474  
TEL 0537-74-5566 FAX 0537-74-4841  
月曜・第4火曜休館



## 医療制度改革の動向と問題点

東京女子医科大学客員教授  
社会保障審議会委員  
渡辺俊介

政府は2006年度に医療制度の抜本的な改革を行う。年末までには最終的な改革案がまとまる予定だが、どのような仕組みに改めるかをめぐって政府内部でも意見が対立している。ここではその現状を紹介するとともに、国民皆保険制度を維持しながら、しかも財政的に持続可能な制度構築するにはどのようにすればいいのか、そしてその問題点は何なのか、などについて考えてみたい。

医療改革の目的は大きく分けて二つある。一つは「財政立て直し」の問題、つまり各健康保険制度の財政を維持することはもちろん、国や地方政府の財政を立て直すためにも、今後急増していくことが見込まれる医療費を抑制しなければならない、という点である。そしてもう一つの目的は「患者本位の医療提供体制」の確立である。医師をはじめとする医療関係者が患者に対してきちんと説明し、患者が治療法などを選択できる体制を作ることをはじめ、医師数や医療機関の地域格差の解消などがここに含まれる。いずれも国民にとってきわめて重要であり、避けては通れないテーマなのだが、その具体的な手法をめぐっては政府の中でも様々な意見がある。

まず財政の立て直しの問題。国民が1年間に使う医療費は現在31兆円余りで、日本の経済力、つまり国民所得の8%程度にすぎない。これは先進諸国の中でも18位程度でむしろ低い水準に属する。しかし政府によれば、日本では今後高齢者人口が急速に増加し、20年後の2025年には70兆円程度にまで膨れ上がるという。しかも少子化の進行で近い将来の働き手の数は減少し、増える医療費をまかなうためには保険料や税金の負担を相当に重くしなければならない。

そうした近い将来をにらんで今から医療費抑制の措置を講じておかなければならないという理由だけではない。今でさえ国や地方は膨大な借金を抱えている。大幅な増税ができないのであれば、医療費や年金などの社会保障費だけでなく、国の支出全般にわたって徹底した見直しをしなければならない。小泉内閣が掲げる「徹底した構造改革」「官から民へ」



という政策目標はこうした背景があるからである。

そこで医療財政問題については、まず首相官邸にもうけられた経済財政諮問会議（議長・小泉首相）や財務省は「現在年間3%程度伸びている医療費を、経済の伸び以内に抑える」と主張している、診療報酬のマイナス改訂を繰り返しても医療費の伸びは経済成長率を上回っている。だからもっと思い切った手を打たなければ効果がないというのである。そこで例えば、①風邪や腹痛などの軽い病気は保険からはずし、全額患者負担とする、②診療報酬の1点単価（現在10円）をもっと引き下げる、などの案を示している。

また患者本位の医療提供体制に関する首相官邸や財務省の主張の中で象徴的なものは「医療機関への株式会社参入」である。株式会社の参入を認めれば、いろいろな業種が医療の分野に入ってくる。当然競争原理が働き、医師や看護師などが丁寧な説明をするなど、患者サービスは向上するだろう。医療機関も株式を発行することで資金を調達することができる。サービスもよく治療実績もよい医療機関の株価は上昇するだろうし、医療全体の水準向上にもつながる。こうした点がその理由になっている。

これに対して厚生労働省は、首相官邸や財務省の案では国民皆保険体制が崩壊しかねず、また必要な医療が受けられなくなる恐れも出てくるなどとして、反対の姿勢を示している。そこで同省がまとめようとしている改革案は次のような内容になっている。

まず医療費抑制に関しては「医療費の適正化」という考えを打ち出している。無駄な（あるいは無駄と思える）医療費については削っていくものの、必要な医療費は確保しなければならないというのが基本的な考えだと言えよう。具体的には予防、中でも

生活習慣病予防の徹底である。運動や食事といった一次予防、検診などの二次予防、それに重症化、合併症予防といった三次予防に力を入れる。それによって相当な医療費の削減が期待でき、しかも本人にとっても望ましいとしている。それを国が旗を振るだけでは実効があがらないだろうから、都道府県に対してそれを実行できるよう「保健（予防）計画」「医療計画」「介護計画」の作成を義務づける。あわせて現在全国一律の政府管掌健保の保険料を都道府県によって異なるものにする。つまり医療費が高い都道府県では高く、逆の場合には低くする。こうすれば都道府県も努力せざるを得なくなるというわけである。

しかし、こうした予防重視の方策は望ましいものではあるが、医療費抑制の効果を出すまでには時間がかかる。そこで医療費増の大きな要因になっている入院期間の短縮を進め、その受け皿ともいべき在宅医療を充実させていく。そのためにも診療所（開業医）同士の連携はもとより、病院と診療所間の連携を進めるネットワーク作りも医療計画の中に盛り込む。また患者が医療機関を選びやすいようにするために、医療機関の情報開示や広告規制の緩和、さらには医療法人制度の見直しも大きな検討課題になっている。

政府内で意見の相違を抱えているものの、小泉内閣の継続が決まったことにより今年末には具体的な改革案が決定する方針に変わりはない。また来年度の改革だけで終わりとはならない。今後とも高齢者医療制度の創設をはじめとして改革は続いていく。しかしそれらがどのような方向になるかは最後は世論が決めることになる。そのためにも医療機関が患者に支持されることが、より望ましい改革の方向性を決める最大の要因になるのではないかと思う。

## 発展的解消を迎える日が来るまで

日本医師会女性会員懇談会委員長  
神奈川支部 保坂シゲリ



## 日本医師会 第1回 男女共同参画 フォーラム

日本医師会大講堂  
7月30日

日本女医会の諸先輩方が長いこと女性医師をめぐる問題に真剣に取り組まれ、その結果、大きな力となってきましたことは皆様良くご承知の通りです。しかし、多くの医師が加入し、国をはじめとする多方面に対し大きな力を持つ日本医師会のなかでは、残念ながら今まで女性の問題は女性のみで考え、解決すべきであるかのように扱われてきました。ま



開催の経緯についてや、今後の日医としての取り組みについて述べる植松日本医師会会長

## フォーラムに参加して

宮城支部 高橋克子

た、女性医師の割合が急増し、女性医師の果たすべき役割がますます重要となってきたにもかかわらず、日本医師会での男女共同参画についての意識や取り組みは、未だに不十分と考えられます。その解決のための第一歩として、私たちの委員会は日本医師会男女共同参画フォーラムを企画し、その運営にあたりました。第1回フォーラムは日本医師会大講堂で7月30日に開催致しました。会長講演「男女共同参画社会を迎えて、日本医師会の考えること」として、植松会長がこのフォーラムの開催の経緯についてや、今後の日医としての取り組みについて述べられ、基調講演「男女共同参画は日本社会の希望」では名取はにわ内閣府男女共同参画局長が、日本の男女共同参画の非常に詳細な現状と、政府の基本計画の改正を含めて今後の取り組みについてお話し下さいました。パネルディスカッションは「女性医師は何を求め、何を求められているか」をテーマに5人のパネラーにそれぞれ貴重なご報告、ご提言をいただきました（全資料、全記録を日医ホームページ (<http://www.med.or.jp/nichinews/n170820b.html>) に掲載しておりますので、ご覧下さい）。

その後、フロアの参加者から活発なご意見をいただき、予定時間を大幅に延長、更に懇親会でも活発な意見交換が行われました。当日は全国から200名以上の参加がありましたが、その約4割が男性会員でした。男性の中には義務や義理でご参加下さった方も多かったようですが、終了後には「非常に勉強になった」「大変良い時間を過ごした」「とても良い会だった」等々の感想をいただき、会の開催が意義あるものだったと実感致しました。また、当日あの日医会館に歴史上初めて、託児ルームを設置することができたことも大きな前進であったと考えています。

この男女共同参画フォーラムは今回1回限りのものではなく、毎年繰り返して開催する予定になっています。いつか男女共同参画が当然のこととなり、会の発展的解消を迎える日が来るまで続けて行くために、皆様のご協力を心よりお願い申し上げます（来年は9月に大阪で開催の予定です）。

大坪公子理事をはじめとして、多くの女医会会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

「女性医師は何を求め、何を求められているか」というサブタイトル付きの男女共同参画フォーラムが7月30日（土）、日本医師会館大講堂で行われた。宮城県女医会からは、山本蒔子会長、小田泰子、鈴木カツ子、筆者の計4名が参加した。参加者は男女それぞれ90名、126名、合わせて216名と盛会であった。植松治雄会長の講演「男女共同参画社会を迎えて日本医師会の考えること」では、前執行部の女性理事2名に対し、現執行部には女性理事が不在であることから、新しく発足した女性会員懇談会の充実と、各委員会への女性会員の積極的参加、それを支援する日本医師会の姿勢が示された。

「男女共同参画は日本社会の希望」という内閣府男女共同参画局長、名取はにわ氏による基調講演では、HDI（Human Development Index）を指標にすると日本女性は世界で9位、GEM（Gender Empowerment Measure）では何と38位のデータが提示され驚嘆する。つまり、「長寿を全うできる健康的な生活」、「教育」、「人間らしい生活」という観点から分析すると世界では上位に位置する。しかし、女性が政治および経済生活に参加し、意思決定に関与できるか、具体的には国会議員、専門職、技術職、管理職に占める女性割合および男女の推定所得から算出した指数を見ると、日本はフィリピン以下に位置づけられている。つまり、わが国の男女平等の実現度が低いことを示された。パネルディスカッション「女性医師は何を求め、何を求められているか」では、これまで言われてきた女性医師に関する諸問題を様々なアンケートを基に再確認する発言が多かった。

シンポジストの大阪厚生年金病院長・清野佳紀先生は「病院長としての女性医師勤務支援」と題し、自らの支援策を話した。すなわち、女性医師の勤務体制をより柔軟にする、子育て中の職員の駐車場確保、近隣保育所との優先契約、病児保育の実現、院内への24時間営業コンビニエンスストアの誘致、臨時職員への産休・育休付与などを紹介した。院長の意思次第でいずれも実現可能であり、現状を放置すると深刻な医師不足に直面すると警告を發し、女性医師の働きやすい環境づくりを実践して、いきいきと働く女性医師は患者からの信頼も厚く、病院にとってもプラス面が多いと力説した。最後に「子育て

て支援はポストと旦那で決まる」と結んだ。

フロアからは、「365日、24時間体制の小児科診療を実施しているが、12人の小児科医のうち9人が子育て中の女医で、それがフレックスタイムを活用して円滑に機能している」という発言があった。しかしそれは、男性医師の協力無しには不可能なことであろう。

伯井俊明常任理事は、「医師会活動への女性医師の参画」として、男女を問わず若い世代の医師会離れが進行しているなか、やる気と能力のある人材登用が大切であると述べ、各種委員会等にひとり以上の女性のポストを設けることを執行部の方針として示した。

フリーディスカッションでは、女性医師に対する意識改革を病院経営者・管理者・指導者に求める意見が出され、「産休・育休取得困難解消のためにリーダーシップをとって都道府県・郡市医師会や大学医局などに指導してほしい」と日医に要望が出された。

近年、医師国家試験合格者の女性の比率は33.7%と増加傾向にあり、さらに女子医学生が増加は看過できない問題を有している。すでに最近、小児科、産科、麻酔科の医師不足、医師遍在が深刻な社会問題に発展している。その一因として日本の女性医師が30歳代になると就業率が60%まで急激に減少するという。それは結婚、子育てを契機に職業を放棄せざるを得ない社会環境に起因することが大きい。その対策として、特に医師を含む子育て中の女性に対し、よりゆとりのある生活環境の保持とその支援を志向した国の施策が強く求められる。

出席した宮城県女医会員は、病院に勤務する女性医師の働く環境を改善するために、東北大学病院はじめ公的病院の病院長に働きかけることや、東北大学医学部の女子学生と女医会員が話し合う機会を作ることを今後の活動として進めていくことで、意見が一致した。

本報告の概要はすでに宮城県医師会報（2005.9月号）に掲載したものである。再掲載の許可を与えて下さった該当広報部に深謝致します。

### 原稿をお待ちしております

各支部の活動報告、子育て支援、男女共同参画をはじめ、さまざまなテーマに対する原稿を広く募集いたします。より充実した紙面づくりにご協力ください。

次号（185号・2006年1月発行）  
の締切は、12/15です。

おたより  きてます！

## 国際比較文化的な日々 —海外留学での生活から—

東女医学内支部

ブリュッセル自由大学集中治療医学研究員

矢口有乃

日本を離れ、海外（ベルギーと米国）での生活も6年近くなろうとしている。医療関係者の方々にかかわらず、日本人駐在員などの方々から、よく「どのようなご研究をされているのですか？」と聞かれることが多い。ベルギーでも、米国（ピッツバーグ）でも、集中治療医学教室での主な仕事は、簡略して言えば「敗血症、炎症反応の病態生理の研究」であるが、最近、「国際比較文化です」と答えるときもある。私のような素人が、「国際比較文化」という言葉を述べるのも、国際比較文化学のご専門の先生方には、失礼極まりない返答なのかもしれないが、この6年間で、サイエンスのみならず、日々の職場あるいは生活の場で、多くのことを学んだことは間違いがない。

私の海外志向は、女子医大生のときの、英国での語学留学と臨床実習が、起点である。

女子医大の救命救急センターに就職してからも、常に頭の一部には、「いつかは、海外に出たい」という思いがあった。言葉も文化も習慣も違う世界で、“自分”を試してみたいという、若かりし気持ちがあったのであろう。また、国際学会にたびたび参加するうちに、日本と欧米での、救命救急・集中治療医学での話題性や問題点の違い、また、「日本での治療成績が良いにもかかわらず、なぜ、欧米諸国は、日本の救命救急・集中治療医学に目を向けないのか？」という疑問が生じていた。その答えを見出すこと、そして自分試しの旅が、スーツケース1個を片手に始まったのである。最初は、ベルギーであったため、フランス語圏内（といっても、私は日本で、フランス語を勉強したことがありません）で、住民登録から、アパート探し、賃貸契約、自動車の運転（日本では、17年間完全にペーパードライバーでした）、医学士号の取得などなど、また途中で、ベルギーから米国への引越し、米国での生活のインストール、そして再度、米国からベルギーへの引越しと、一つ一つの経験の積み重ねで、正直「生活すること」だけでも、たくさんのことを学び



得た。気候や風土、歴史などが、生活様式から価値観まで多大に影響していることを知った。

仕事においては、私の場合は、自分の興味があるテーマ、人物を捜し選択したため、採用から職場での人間関係作りなど、これも一からの出発であった。ベルギーでの仕事の当初は、集中治療医学の教授と、血液内科学の助教授が、見も知らない私を、自分達の仕事の合間をぬって、時間を割いて、つきっきりで指導して下さった。根底に結ばれているものは、“共通の興味ある研究テーマ”ということだけである。もちろん、徐々に互いの性格や、価値観なども理解し始め、人物的にも、今や深いつながりとなっている。が、“共通の興味ある研究テーマ”で作られた人間関係に、私は非常に深い感動を覚えた。

米国においてもしかり、である。教授、助教授が、休日返上、深夜遅くまで論文や実験の指導をして下さった。そして、今やこの“共通の興味あるテーマ”で結ばれた人間関係の輪はベルギー、米国のみならず、世界へと広がっている。私にとって、この海外留学の最高の宝は、この人間関係である。

ここで私なりの一国際比較文化論を少し述べてみたい。ベルギー人は、フランス、ドイツの大国にはさまれているせいなのか、非常に自己を守ろうとする、個人主義の強い国民のようだ。仕事においても、生活においても、すべてにおいて、自ら一步出て行かない限りは、周囲は何も動かないし、何も変わらない。他人には、あまり関心を持たないようである。が、一旦作られた人間関係、信頼関係は、非常に強く深いものであり、「相手のために、自分ができる限りのことを何かしてあげたい」という関係になりえたときが、うれしい。

米国人は、競争社会の中で生まれ育っているせいなのか、非常に努力家のようなのである。というよりも、努力することは当たり前であり、他人とは違う“自分”を創り出すことに非常に精を出す。また、よく言われるようにオープンな性格であり、自分達の社会に誰でも受け入れ、入りやすい社会であり、始めから他人に興味を持ち、係わり合いを持つことができる。が、自分と他人との区別が、はっきりしているようにも思え、どの時点で深い人間関係になり得たのかが、わかりにくい。どちらの国においても、熱意と誠意が、言葉や習慣を超えて、いろいろなことを動かす、ということも体験から学んだことだ。

最後に、欧米人は、日々の生活や人生を非常に楽

しんでいるように見える。実際、楽しんでいるのであろう。決して贅沢な暮らしではなくても、豪華なものに囲まれていなくても、自分が、楽しく、幸せを感じる基盤を作るのが上手である。そのための仕事であったり、また仕事自身が生きがいであったりする人もいる。自分だけよければ良いという自分勝手ではなく、「自分が幸せでなければ、楽しくなければ、他人を思いやる気持ちができない、良い仕事ができない」という、後に必ず、他の人を考える余裕を感じる。根本は、自己中心、自己責任ではあるが、決して自分勝手には留まらない、そんなゆとりある、心豊かな生き方を見習いたい、とつくづく思う。スーツケース1個から始まった私の旅は、今、日本へと移動しつつある。たくさんのダンボール箱や家財道具の引越し荷物に囲まれ、引越しのことで頭が茫然とする一方で、今度は、母国日本で、何が見えるか、何が学べるのか、楽しみな気持ちでいっぱいである。

## 文部科学大臣賞を受賞して

宮城支部 小田泰子

このたび、思いがけなく文部科学大臣賞を頂きました。長年、学校医をしてきたことが評価されたのです。宮城県では「学校医歴35年以上、県医師会からの推薦を受けた者」が大臣表彰に推薦されるという内規になっています。

私は学校医になってからの年月は長いのですが、学校保健にそれほどの貢献をしたとは考えられず、頂くのが心苦しいように思っています。

昨年の10月に福島県郡山市で開かれた全国学校保健・学校医大会で表彰式が行われ、表彰状を頂いて帰り、壁にかけました。表彰状にある中山成彬文部科学省大臣のサインを見るにつけ、大臣表彰を受けた重大さを改めて認識し、ご推薦下さった学校、教育委員会、宮城県医師会などの諸先生に深く感謝しています。

今回、受賞の感想を書くようにとのことで、文部科学省とはどのようなところなのか、どのような人が表彰を受けているのかを知りたいと『文部科学白書』などを開きました。

昨年はオリンピックのメダリスト、メジャーリーグのイチロー、それから、カンヌ映画祭で受賞した映画『だれも知らない』の主演俳優・14歳の柳楽

優弥さんなど多くの方が文部科学省大臣表彰を受けられ、一部の人はグラビアで『文部科学白書』の紙面を飾っていました。

学校保健関係を知りたいと探しましたが、学校保健については『文部科学白書』の目次になく、索引にもなく、結局、『文部科学白書』のどこにも記載がありませんでした。文部科学省にとって学校保健は非常にマイナーな、取るに足りない事業であると認識させられ、少々がっかりしました。

## R E P O R T

### 日本生理学会男女共同参画推進委員会シンポジウムへの参加

理事・宮城支部 山本蒔子

2005年5月18日から20日に、仙台において第82回日本生理学会が開催されました。期間内の20日に、男女共同参画推進委員会シンポジウム「男女共同参画の過去、現在、そして未来に向けて——その1」が開催されました。座長は名古屋大学環境医学研究所神経性調節分野教授の水村和枝先生でした。

その中で、4人が講演をしました。最初は「黎明期における女性科学者——理化学研究所の女性研究者を中心として」と題して、相山女学園大学名誉教授・並木和子先生が講演されました。次いで、私が「女性医師の働く環境」と題して話しました。その後は「男女共同参画の今——女性研究者を女房にもって」と題して、若い生理学研究者の男性二人が話をされました。二人とも夫として子育てや家事に積極的に協力して、妻の研究生活を応援している様子を具体的に話されました。しかし、それでも、夫に比べ妻の職業上の地位は低く、妻は継続して一つの職場で仕事が出来なかったり、非常勤であったりせざるを得ない状態でした。学会で、もっと女性研究者を座長にする、シンポジストにするなどして活躍の場を与えて、女性研究者がポストを得られやすいように支援することが必要と結論していました。このような若い男性の考えに、私は大いに共鳴し、感激しました。以下に私の講演要旨を記載します。

#### 女性医師の働く環境

##### 私の子育て環境

私は1965年に東北大学医学部を卒業し、1967年

に医学部第二内科入局後、大学院に入学し、薬理学教室にて教育を受けました。1968年長女を出産し、子どもを預かってもらい仕事に復帰しようと仙台市立の保育所を探していましたが、市の窓口では、両親が医師の家庭では保育所には入れません。これは福祉事業ですからとにも無いです事でした。

私の母は眼科医で、東京女子医学専門学校の出身です。母から、宮城県女医会の梅原ミヤ先生のことを教えてもらいました。梅原先生はご自身が子育てに苦労されたことから、仙台市支倉町で小児科医院を開業される傍ら、梅原ベビーホームを開設されていました。私の長女は、梅原ベビーホームに3歳まで預かって頂きました。

その頃、東北大学医学部附属病院と職員組合との交渉で、病院に保育園を作ることが何度か取り上げられていましたが実現していませんでした。子供を預けるあてのなかった私は、大学病院に保育園を作ることと決意して、利用を強く希望をしている種々の職種の人達30名で父母の会を作り、運営も辞さない覚悟で働きかけました。そして、1970年に大学が運営する“ことりの家保育園”を作ることになりました。現在は福祉法人の運営する仙台市の認可保育所となって続いています。

#### 女性医師を囲むバリア

子育て環境を自力で作上げ、東北大学医学部第二内科の医局において、研究、診療、教育を続けてきました。しかし、管理者である男性の意識において、女性蔑視の考えは根強いものでした。私を初め、多くの女医の経験してきたことをまとめますと、①女性はどうせ腰掛でしか働かない（医学博士を取得して、保育園に子供を預けて働いているのに！）。②女医は教室には要らない。③女医には簡単な研究テーマしか与えない。④女医を指導する必要は無い。⑤女医は助手にもなれない。

このように目に見えないバリアは大変大きいものでした。

#### 女医の組織 宮城県女医会の活動

日本女医会は、1902年に創設されましたが、宮城県には1958年に宮城県女医会が作られました。私は子育てがほぼ終わった頃の、1986年頃入会しました。

宮城県女医会では創立40周年事業として、2000年に、女医の生活・就職・職業に関する調査を実施しました。宮城県内の女医689名、宮城県内病院



148、郡市医師会 19 を対象としました。回収率は女医 29.8%、病院 34.4% および医師会 100% でした。

子育てとの関連では、出産後仕事を中断したと答えた女医は、130 人中 23.8% でした。子育て中の女医が希望する配慮に関して、94 名の回答者から、「当直」、「出勤時間や帰宅時間」、「病児保育施設」があげられていました。一方、女医を受け入れる際の問題については、111 の病院、医局および女医の回答では、「問題あり」が 58.6% を占めました。その理由は、「体力の不足」、「不意の休暇」、「当直」、「早い帰宅」、「出張しない」、「出産」、「スタッフとして期待し難い」があげられていました。女医が抱える子育ての問題を、社会全体として解決すべき姿勢が全く見られませんでした。

宮城県内の病院における女性の地位に関しては、27 病院から 68 名の女医の回答が寄せられました。女医の割合は 16.2%、国公立病院では、院長、副院長に女医は 1 人もいませんでした。部長、副部長の役職に占める女医の割合は 18.6% でした。

東北大学医学部の医局（回答 24 教室）に対する調査では、医局員の 12.9%（84/649）が女性でしたが、教官は教授と助教授は 0、講師は 1 名（2.7%）、助手は 9 名（5.7%）でした。

医師会では女医会員は 9.7%（288/2971）ですが、理事は 2.0%（4/198）、各部委員は 3.6%（26/716）を占めているに過ぎませんでした。

これらから、女医がキャリアアップしていくための環境は、現在も極めて厳しいものと思わざるを得ませんでした。私自身が大学に在籍していた 1987 年頃と比較してみますと、大学病院では助手の数が少し増加し、国公立病院では、部長、副部長の数が少し増えていると感じられました。

### 病児保育施設創設への支援

東北大学病院には教授を除く教官、医員、研修生および大学院生の 1,000 名からなる医学部教室委員会という組織があります。その福利厚生部が活動として育児支援に関する情報を集めたところ、病児保育の要望が多いことが判明したため、病児保育施設の設置を目指すことになりました。

以前の“ことりの家保育園”を作った経験があるためか、1998 年頃に教室委員会会長と福利厚生部の女医が、私に相談に来られました。子どもが急に熱を出した時に仕事を休めず、途方にくれたことを思い出し、そのような時に対応できる施設は是非必要であることや、情熱を持って施設作りに頑張る当

事者である女医が、少なくとも 2 人いれば出来るでしょうと話しました。

そして、私のところに相談に訪れた女医たちが中心になって活動し、2001 年 2 月に「東北大学星陵地区病児保育施設」が創られました。運営は医学部教室委員会と看護部会が中心であり、宮城県女医会も助成金を差し上げています。

### 東北大学男女共同参画の推進

東北大学は 2001 年 3 月に男女共同参画委員会を作り、2002 年 9 月に第 1 回東北大学男女共同参画シンポジウムが開催されました。私は女医の立場から、シンポジストとして参加し、医学部において女性の能力を生かしていくためには、女性教員率を上げる必要があることを訴え、そのためには目標とする割合を決めて欲しいと要望しました。

2003 年 11 月、第 2 回東北大学男女共同参画シンポジウムにおいて、帝国大学の中で、初めて女性の入学を許可した沢柳総長の偉業を称え、東北大学男女共同参画奨励賞（通称：沢柳賞）創設が発表されました。星陵地区病児保育施設は、エンパワーメント部門において、この第 1 回沢柳賞を受賞しました。

2004 年 11 月現在の東北大学医学部における教員と大学院生に占める女医の割合は、教授は 2.9%（いずれも基礎医学）、助教授 0、講師 8.1%、助手 10% です。しかし博士課程に占める女医の割合が 30% であることから見ると、高い率とは言えません。

東北大学の過去 5 年間における女性教員数を表に示しました。東北大学は国立大学協会の掲げている女性教員率 20% を目標値とし、2010 年までに実現するとしています。しかし、この表を見る限りでは、2010 年でも 10% 以下に留まることが予想されます。そのため、今後各部局において、①男女共同参画推進の方針で人事を進める、②男女共同参画の講座や研究の推進、③ジェンダー学の開講や講演会の開催、④研究労働環境を整えるため学内保育所の運用を開始すること、などが対応策として挙げられています。今後の対応が期待されます。

表 東北大学における過去 5 年間の女性教員率

	助手を除く	助手を含める
1999 年	2.1%	5.2%
2000 年	2.4	5.5
2001 年	2.7	5.7
2002 年	2.9	5.8
2003 年	4.3	6.7
2004 年	4.9	7.1

宮城県女医会の今後の取り組み

宮城県女医会としては今後、①男女共同参画シンポジウムや講演会への積極的な参加、②女医への研究助成金制度授与事業による研究の支援（1991年から実施）、③病児保育施設への助成（2001年から実施）、④各自の働く環境である病院において、男女共同参画推進を働きかける、⑤医師会において女医の理事への登用を進める、等を方針として、男女共同参画を自分達の問題として捉え、自らを取り巻く環境において、推進に取り組みたいと思います。

第51回定時総会のご案内

第51回定時総会は東京で下記のように開催予定です。役員改選もありますので、皆様奮ってご出席下さいませようお願い申し上げます。

開催日 平成18年5月20日（土曜日）  
 会場 京王プラザホテル  
 時間 評議員会 10:00～12:00  
       選挙 13:00～14:00  
       総会 14:00～15:00  
 （時間変更の可能性もございます）

日本女医会副会長 加藤竺子先生に  
日本医師会最高優功賞

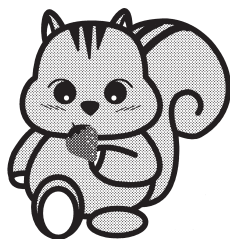
理事 山本蒔子

日本医師会では、11月1日に開催される第58回日本医師会設立記念医学大会に、日本医師会最高優功賞の授与を行います。日本女医会副会長の加藤竺子先生がこのたびこの賞をお受けになることが決まりました。この賞は、都道府県医師会長推薦の候補者の中から、医学、医術の研究により医学、医療の発展または社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者に授与されるものです。加藤先生は「女性医師参画推進に貢献した功労者」として表彰されます。

加藤先生は、福岡市において永く保健行政に携わり、その手腕を認められて、福岡市の助役も勤められました。このような優れたご活躍から、受賞者として選考されたものと思われます。女性医師の地位の向上をめざしてきました日本女医会にとりましても大変悦ばしいことであり、加藤先生に心からお祝いを申し上げます。



※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」は添付文書をご参照ください。



マクロライド系抗生物質製剤〔薬価基準収載〕

**クラリス**®錠200  
 錠50小児用  
 ドライシロップ小児用

指定医薬品・処方せん医薬品<sup>注</sup> クラリスロマイシン製剤  
 注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること



発売〔資料請求先〕  
**大正富山医薬品株式会社**  
 〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



製造販売  
**大正製薬株式会社**  
 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

2005.04  
 CL114A426



## ■支■部■だ■よ■り■

## 埼玉支部総会報告

埼玉支部 吉住幸子

平成17年度埼玉支部総会は7月2日(土)に行われました。総会には日本女医会橋本葉子会長のご出席をいただき、新しい方も見えて理事一同元気をいただきました。秋の公開講演会はADHDをとり上げることになりました。また、埼玉支部理事の一人源川千鶴子先生が4月に「秩父宮妃記念結核予防会事業団功労賞」を受賞し、その賞状と記念品を総会会場で見せて下さいました。出席者一同も荣誉に預かった気分で共に喜び合いました。

学術講演会は橋本会長にご講演いただきました。学校や職場で色覚検査が中止された理由を科学的根拠をもとに説明されました。遺伝子、アミノ酸配列のお話から、色覚異常は色が見えないのではなく、見え方が異なるだけであることを強調されました。色覚特性と呼んだほうが適格であること、街では標識や案内板、学校ではチョークの色など、色覚特性のある方にも見やすいものにすべきことを熱く話さ

れました。フロアから質問や感想など発言も多く、実り多い講演会でした。

懇親会には橋本会長、県医師会副会長、理事、地区医師会会長の各先生方をお迎えし、楽しい会になりました。ソプラノ独唱、ピアノ演奏もすばらしく、恒例となった華の会コーラスも楽しく、最後には出席者全員による「今日の日はさようなら」の合唱でお開きとなりました。

橋本会長にはご講演いただいただけでなく、総会、懇親会にもご参加いただきました。心から感謝申し上げます。

## 静岡支部発足 50周年

静岡支部 竹内静香

続いていた梅雨空も、今日は初夏のように野に咲く黄色いすかし百合が美しい。その坂を登りきると吉岡彌生記念館が建っている。

今日6月24日で静岡県女医会が発足して50周年を迎える。50年にわたる歩みと未来に向っての発展を祈念し、「来し方行く末」座談会を開催した。この記念すべき日に、日本女医会第二代会長である

高親和性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー

薬価基準収載

# オルメテック<sup>®</sup>錠

20mg  
10mg

指定医薬品 ※処方せん医薬品:注意—医師等の処方せんにより使用すること  
一般名:オルメサルタン メドキシミル

●効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)  
**三共株式会社**  
SANKYO 〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1

プロモーション提携  
**株式会社 三和化学研究所**  
SKK 〒461-8631 名古屋市東区東外堀町35番地



大先輩の吉岡彌生先生の記念館で、現日本女医会会長橋本葉子先生を記念総会の華としてご講演をお願いしたところ、ご多忙の中、快くお受け頂きこの運びとなった。

午後1時より記念館を見学し偉大なる先輩の足跡に感銘を受け、その後すぐ下にある藤江亭に、座談会並びに懇親会の会場を移した。

ウィークデーにもかかわらず、熱心な静岡県東・中・西部から15名の先生方が集まり、とくに今回ははからずも若い中堅の先生方も一堂に会した。

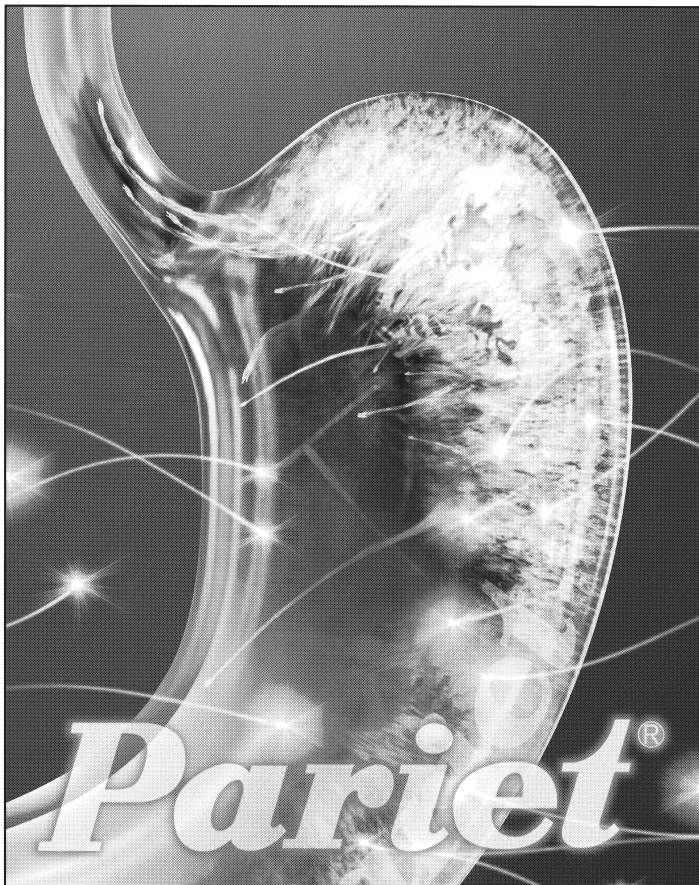
橋本先生から女医会の現状並びにその事業、子育て支援、学術研究助成、会員の増強など細かくお話し頂き、日頃は会長先生と直々にお話しする機会がないので皆熱心に拝聴した。その後、各自それぞれ発言し、なかでも「女性と仕事、子育てと仕事の問



題」、「卒業5～6年目で結婚・出産。どうやって乗り越えてきたのか。なかなか時間も機会もなく知ることが出来ない……」等、膝を交えた話し合いになり、次々対話が弾んだ。

日本女医会では、数年前から医師の環境整備小委員会、さらに子育て支援委員会を作り重要課題として取り組んでいるが、今後静岡支部としてもこの切実な問題の解決のため、ネットワークを作りお互いに協力し合おう。

50年の大きな節目に  
対話を！ 対話を！  
未来のために。



指定医薬品・処方せん医薬品\*  
プロトンポンプ阻害剤  
[薬価基準収載]  
**パリエット**® 錠10mg  
錠20mg  
〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

\* 注意— 医師等の処方せんにより使用すること  
● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**エーザイ株式会社**  
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室  
☎0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

PT0504-7 2005年4月作成



## 私の大学……東北大学



宮城支部 齋藤淑子



東北大学医学部は、幾多の組織変革、名称変革を経て今日に至っております。さかのぼれば、仙台藩学問所養賢堂に発し、創立を1872年（明治5年）の宮城県立医学所設立の年としています。その同じ場所に今も在って、学内では星陵キャンパスと呼ばれ、医学系施設が集中しています。魯迅も学んだ階段教室は、顕彰のために、片平キャンパスに移築し、公開されています。星陵会館と呼ぶ、生協の入っている学生会館付近は、年月を経た松が植えられ、“掬水の池”を擁した日本庭園がありますが、キャンパス内の建物は、次々と新築され、病院も建設中の新東病棟の威容が現れ、建設済みの新西病棟と一体化しヘリポートを備えた新病院の完成を控えています。明治44年設置の赤煉瓦製、正面玄関の門柱の一部は、平成2年の移転に続き、東側の木町通りの拡幅工事に伴い、メモリアルのために、キャンパス内に再び移されましたし、南側の木立内には、多くの記念碑が散在しています。

ここ数年の変化はめまぐるしく、特に講座は、分割、名称変更、さらには居住区の移転を伴い、“誰が何処に？”、電話番号の変更は有りや無しや？という状況で、Eメールの情報伝達の継続性、個別性の便利さを再認識しています。講座のみならず、病院の診療科にもこの変更は及び、臓器別の診療エリアに複数科が並存しているので、患者の帰属を何処にするかなどの問題が日常的に起きていますが、旧講座に属していたスタッフの退職に伴う世代交代で、全面解決される日も近いと思います。

組織間の交流のために各種のスポーツ大会が毎年トーナメント形式で行われますが、日程調節、人材確保は仕事の性質上、困難を極め、実力どおりとはいかず、時の運に左右されるようです。病院では、

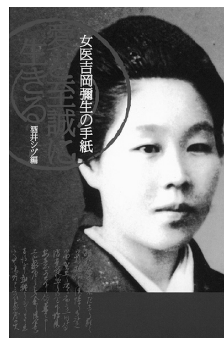
休日を利用しての外来ロビーでバイオリニストの千住真理子さんが資金集めのボランティアとして参加していただいたこともあるミニ演奏会が催されたり、入退院センター、ボランティアの導入など、患者と病院側の相互理解を深める種々の企画を、今後も積極的に取り入れようとしています。

学是としての“研究第一主義”を支える図書館は、年末年始などの特別な日を除き9時から24時まで開館されています。オンライン化が推進され、1階には検索用のコンピュータが多数設置され、各教室から学外文献の申し込みも出来るなど時代に沿った変革がありますが、試験シーズンともなると学生の利用が増えるのは古今変わらぬ風景です。

医学部同窓会は、良陵同窓会という名で、良は“ごん”と読み、“うしとら”で鬼門の方角、北東を意味し、通りを隔てた南向かいに、良陵会館という、小規模な会議を開催できる記念ホール、大中小会議室と日本庭園を眺めながら食事を楽しめるラウンジ、宿泊施設を備えた同窓会館があります。

帝国大学時代に、最も早く女性の入学を受け入れた東北大学ですが、入学者の増加にいたるには100年以上の年月を要し、現在もスタッフは、稀な存在です。

## 書評

愛と至誠に生きる  
女医吉岡彌生の手紙

酒井シヅ 編

NTT 出版

2005年5月20日発行

1,900円＋税

このたび、医史学の大家酒井シヅ先生の編集による『愛と至誠に生きる 女医吉岡彌生の手紙』がNTT出版から発行されました。吉岡彌生先生は東京女子医科大学の創立者であります。彌生先生が亡くなられてから半世紀近く経つ今、その人となりを知る機会も少ないのが現状であります。幸いなことに東京女子医科大学史料室には彌生先生の資料がたくさん保管されており、吉岡彌生記念館でも出来るだけ彌生先生に関する資料を集めております。その中にはたくさんの手紙

もありました。これらをそのまま保管することも大事ですが、愛と至誠に生きた彌生先生の人となりを手紙を通して広く知って頂くことも大事なことと考え、東京女子医科大学と社団法人至誠会（東京女子医科大学医学部同窓会）の援助により本書は出版されました。彌生先生は達筆で、原文は私どもにはほとんど読めませんので、酒井先生を初め専門家に読んで頂き、活字にされました。内容も理解しやすいように注もつけられております。日本女医会会員の皆様にご一読をお勧めします。  
**（会長 橋本葉子）**



## 命を見つめて

魂に寄り添った女医の物語

山崎倫子

岡田 徹：構成

ランダムハウス講談社  
 1,600円＋税

この本は、元日本女医会会長（1985～94年）山崎倫子先生が、戦中、戦後をひたむきに歩まれ、女医として社会に貢献した軌跡を描いた感動の自伝です。私はいつも山崎先生の人柄の大きさを尊敬していましたが、この本を読んで先生が満州で女医として羽ばたかれ、中国語、ロシア語、英語を駆使して苦しい戦中、戦後を生き抜かれたことを知り、さらに尊敬の念を深くしました。

1919年、父・寺村銓太郎、母・芳子の長女として生まれました。お父様のものにとらわれない大きな性格が先生の生き方に影響を与えたと思われます。お母様は勝海舟の三男、梶梅太郎の長女でした。深い愛情としつけにより、強い精神を持つように先生はなりましたが、先生が8才のときにお母様は36才の若さで亡くなりました。先生が15才のときお父様は満州（中国東北地方の旧称）に渡り、ハルピンでホテルを経営するようになりました。

1943年、東京女子医学専門学校を卒業しました。このとき、吉岡彌生先生に直接指導を受けましたが、吉岡先生は、女医である以

前に女性としての在り方やマナーを厳しく指導されたそうです。「あなたたちを社会人として通用するようにし、経済的に自立できるようにしてあげたい」とよく言われていたそうです。

ハルピン医科大学付属市立病院で女医としての第一歩を踏み出されました。戦時下、そして戦後の混乱時に満州で生き抜いた先生の姿は勇ましく、たくましく、戦争の悲惨さを思い知らされます。戦後60年、私たちはあまりにも戦争の実情を知らなさすぎます。先生は、総勢12人の大所帯を率いて、寺村家の長女として一人も欠けることなく帰国を果たされました。この苦労を思うと、胸が熱くなります。

帰国後、国立公衆衛生院で学ばれました。1953年山崎浩様と結婚され、1956年武蔵野の吉祥寺に山崎医院を開業されました。

1981～84年は汎太平洋東南アジア婦人協会国際会長をお務めになり、1982～85年は国際連合第三委員会第37～39回総会政府代表代理を果たされ、1985～94年は日本女医会会会長を、1987年からは武蔵野市立北町高齢者センター所長を務めておられます。イギリス王室の故ダイアナ妃がこのセンターを訪れたことでも有名です。

先生は現在85才でお元気です。私たちの大先輩のこの本『命を見つめて』是非ご一読下さい。

**（理事 大坪公子）**

## 会員動静 (2005年9月20日現在)

### 入会

高橋 克子	(昭41年卒)	宮 城
吉田 穂波	(平10年卒)	栃 木
今井 良枝	(平元年卒)	足 立
大嶋美紀子	(平2年卒)	足 立
竹鼻 明子	(平7年卒)	板 橋
福井 恵子	(昭55年卒)	江 東
池田 和子	(昭33年卒)	神 奈 川
保坂シゲリ	(昭49年卒)	神 奈 川
前田 佳子	(平元年卒)	神 奈 川

### 退会 7名

### 物故

西島 明子	(昭33年卒)	練 馬
長谷川しづ	(昭17年卒)	兵 庫



追悼

## 白浜光子先生を偲んで

群馬支部 丸茂晶子



9月10日、「母が肺炎で亡くなりました」というお嬢様の真理子様よりお電話を頂いて、「ああ、遂に来るべきものが来てしまった、しかもこんなに突然……」と、思わず息のみました。

8月15日、北軽井沢の別荘で呼吸困難の状態になり、2日ほど様子をみられたのですが、とても……、ということで順天堂病院に転送され、最高の医療と御家族皆様の手厚い看護を受けられましたが、その甲斐もなく、9月10日に帰らぬ人になってしまわれたとのこと。御家族の皆様も、突然もぎ取られるようにお亡くなりになり、どんな思いでいらっしゃいますでしょう。

例えば、前日はお元気に皆様と食事にいらっしゃったとのこと、そんな日がその時用意されているとはどなたも思いもされなかったでしょう。しかし、白浜先生は第六感以上のもので皆様と食事をなさりたかったのではないのでしょうか。前々から腎臓機能の良くないことは伺っており、心配はしていたのですが、結局、腎臓機能不全が悪条件になったとのこと。

食事の難しい病気で、野菜・果物もカリウムの関係で自由にとれず、ご飯のタンパク質量まで考えなければならぬ状態で、毎日のことが本当に大変だったことと思います。「とうとう限界まで来てしまったのよ」といわれたときには、言葉も出ませんでした。ずっと拒否されていた透析を始められて、「いろいろ食べられるようになって、早くすればよかったわ」と言っていたらっしゃいましたが、御自分では何かを感じていらっしゃったのではないのでしょうか。

今年5月、クラス会でお目にもかかった時もいつもとお変わらない御様子でしたが、今思うともっと深く御様子を伺うべきでした。その晩は帝国ホテルで同室させて頂き、翌日はショッピングを御一緒に楽しく致しました。お孫様にとネクタイを選んでいらっしゃいましたが、お孫さんの話をなさる時はほんとうに嬉しそうでした。私のためにブラウスを選ぶのを助言して頂き、その後お電話で「この間はいいのが選べて良かったわね」と言って下さったのが、今考えると白浜さんと最後の会話になってしまいました。

今年の夏は暑さが厳しかったので、きっと今頃は軽井沢かなと思っていました。白浜さんと違い筆無精な私は、暑中見舞い状を書いて出しそびれ、残暑見舞いを出したのが半ばすぎだったかと思います。が、何となく白浜さんから反応が感じられず少し気にかかっている時でした。

「あの白浜さんが逝ってしまわれた……」。その思いに身体中の力を皆持って行かれてしまったような気がします。同級生は皆同じ思いではないでしょうか。否、白浜さんを知る方は皆同じと思います。

戦争に大きく影響されて医師となった我々、特に白浜さんは満州に生まれ、多感の時をハルピンで過ごされました。関東軍の圧力を受けながら屈することなく医学教育に精魂を傾け、ハルピン医科大学を創立された偉大なお父上の影響を受け医師とられました。戦中、戦後の大変動の時期に満州で医療活動をされた、あの優しいお姿からは、想像も出来ない凄惨な御経験をされて日本に引き上げられ、それから御結婚され現在の基礎を築き上げて来られたのですから、本当に大変な人生を歩んで来られたと思います。

私のもっとも尊敬するのは、その中であつても豊かな心を大切に生きて来られた点です。しなやかで美しく、楚々としてそれでいて決断する凛々しさを持った類い稀な方でした。戦後未だ世情収まらない時に、ピアノを買われた話を伺ったことがありました。そんなものより食糧、住宅というグスグスした時代です。凄惨な経験に負けない真の麗質、決して驕らない真の教養、そして人に対する思いやり、決して順調とはいえない人生を見事にこなし、温かな、立派な御家庭を築かれ、開業医として患者さんに慕われ、対外的にも地域医師会、日本女医会理事（S63～H6）、同副会長（H6～H9）として役目を果たされ、その中に御自分の信念と優しさを失わず、貫き通されたその強さ、これは立派な御両親の大きな遺伝であろうと想像します。白浜さんの信念の強さは、満州時代のご経験が本当に活かされたからと思います。

重態の病床で高齢の友人のことを気づかれ、良き日を送るように願うと言付けられたと伺い、こんな方がこの世に居られるだろうかと思いました。御自分の最期の時に友人に思いを馳せられるなんて……。雷に打たれた様でした。本当に長い間有り難うございました。私達は希有な友人を永遠に失いました。

「生者必滅、会者常離」。何と悲しい言葉でしょう。私達同級生は遅かれ早かれもうすぐ貴女の所へ参ります。私は未だ貴女は御存命と思っています。この間の追悼会のお写真は貴女があのお世にいらっしゃるとは思えませんでした。自然で美しく、何かおっしゃりそうないつもの貴女が、そこにいらっしゃいました。お孫さんのグループの演奏にはとても心を打たれました。涙が溢れました。またお会いしてそんなお話をしましょう。

# ((( 理事会議事録 )))

**日時：**平成17年6月25日(土)  
午後3時00分

**場所：**(社)日本女医会・会議室

**出席者：**橋本、石原、加藤、鹿田、内潟、大坪、古賀、澤口、澁谷、平敷、船越、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康) (以上16名)

**欠席者：**斎藤、角田、中山、濱田、山本(續)、山本(蒔)、川田、橋川 (以上8名)

庶務報告／会計報告／各部報告

## 議 題

1. 第50回定時総会の反省
2. 「荻野吟子賞」商標登録の件
3. 選挙の方法の件
4. その他
  - ・職員夏期賞与の件

4月理事会議事録を承認

## 報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 船越理事  
平成17年4、5月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告

**【渉外部】** 澤口理事  
・国際婦人年連絡会より「北京+10宣言」に関する書類の送付があった。

**【事業部】** 山崎(ト)理事  
・「いきいき」11月号からの執筆者募集中、協力を要請。タイトルは変更可能

**【広報部】** 山崎(康)理事  
・会誌183号、7月25日発行に向けて準備中

**【橋本会長より】**  
・10日に平敷理事と厚生労働省医政局医事課「女性医師に関する検討委員会」の中村課長補佐と面談。女性医師の活動への支援をしたい旨提案があり、全面的に協力する。

## 協議事項

1. 第50回定時総会の反省
  - ・受付での確認の強化、会開始に先立ち「会員のみ」と宣言する等、徹底する事に決定
  - ・平敷理事より

総会担当の支部で作成するプログラムは、毎年規格も同様なので本部で一括統制してはとの意見が出された。

- ・「会務報告」をA4に統一する。
- ・橋本会長より、毎月の会計報告を社団法人としての会計とし、その月の全体予算における達成率を明記してはとの提案があり、今後その形式で報告する。

・加藤副会長からワークショップ「日本女医会の現状より未来を考える」について報告があった。

意見：日本女医会の魅力が無い。入会のメリットがない。

方法：PRを上手く、ホームページの充実、女医会魅力作りをする。

対策：プロジェクトチームを作り、早急に時代にあった出来る事から実行。

新しい情報の発信・伝達方法を考える。まずはホームページを充実させるため、広報部・学術部が担当し、早速委員会を開催する。会誌の内容を重点的に記載する。

・「大学連絡係」の復活作業を平敷理事に一任。

・会計部の発表でタイムロスがあったとの指摘があった。会計での個々の細かい数字は読み上げなければならぬものであるから、今後は有効的な時間の使い方を考える。

・理事は執行部という意識を常に持って評議員会・総会に臨む事。

・評議員会で承認された事に対し総会で改めて評議員から発言があった。会の進行方法も徹底する。

2. 「荻野吟子賞」商標登録の件  
特許事務所に相談した結果、人名の商標登録は今までになく、恐らく却下されるであろう、また全国の「荻野吟子さん」に了承を得なければならないとの事。医学関係では「荻野吟子賞」は既に認知されているから、今後は「日本女医会」を頭に付け、それぞれ「日本女医会吉岡弥生賞」「日本女医会荻野吟子賞」「日本女医会学術研究助成」とする事に決定。

3. 選挙の方法  
従来通り「選出された理事の互選とする」に決定。

4. その他

・平敷理事よりドイツで6月に行われた国際女医会・理事会に出席の報告。

昨年の国際会議に対する御礼、小野先生に対するお悔やみがあった。英語版「会計報告」提出の義務あり。平敷理事が国際女医会のWeb Masterに任命される。

・内潟理事より第8回国際女医会・西太平洋地域会議の紹介あり。阪急交通社に依頼中。スピーカーとして内潟理事、津田会員、山本(續)理事が決定している。

・県女医会のみ会員は日本女医会に入会して頂くのが望ましい。

・職員夏期賞与は2か月支給

・来年度は独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」の他、「高齢者・障害者福祉基金」へ助成金を申請する。

以上

**日時：**平成17年7月23日(土)  
午後3時00分

**場所：**日本女医会会議室

**出席者：**橋本、石原、加藤、鹿田、内潟、大坪、古賀、斎藤、澤口、澁谷、角田、濱田、船越、平敷、松井、村田、山崎(ト)、山崎(康)、山本(續)、山本(蒔) (以上20名)

**欠席者：**中山、森川、川田、橋川 (以上4名)

庶務報告／会計報告／各部報告

## 議 題

1. プロジェクトチームの経過
2. ブロック別懇談会について
3. その他

6月理事会議事録を承認

## 報告事項

1. 庶務報告 古賀理事  
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 濱田理事  
平成17年6月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告

**【渉外部】** 澤口理事

・松井理事が2年間「男女共同参画推進連携会議議員」として任命を受ける。

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

国際婦人連絡会「教育マスメディア委員会・社会教育」の委員として活躍

【広報部】 山崎(康) 理事

・会誌183号が25日に完成予定

【学術部】 山本(續) 理事

・今年度学術講演会を10月22日(土)17時より「睡眠障害」と題して、慈恵医科大学伊藤洋教授を講師に開催したい旨諮り、承認される。

【子育て支援委員会】 斎藤理事

・7月12日行われた独立行政法人福祉医療機構「ヒアリング」の報告

・7月16日に岡山で開催された「第2回委員会」、17日に出席した「全国病児保育研究大会」の報告

・11月13日大阪で開催する「ワークショップ」の説明

【平敷理事】

・「大学連絡係」について資料に基づき説明。以前「連絡係」の33名の会員へ改めて依頼書を送付し、19名が承諾したとの報告。又未定大学の「連絡係」推薦の協力を依頼。会員外でも可。

#### 協議事項

1. プロジェクトチームの経過(独立行政法人福祉医療機構へ新規申請予定)

・大坪理事より

「長寿社会福祉基金」へ患者の家族、ホームヘルパー、一般市民を対象とした「高齢者在宅支援事業・たんの吸引を安全に実施するための教育講習会」の提案。修了書の交付、実習の仕方、器械の提供など、問題が多いので検討し直し、再提出する。また、身体介護に関して爪切り、身体清拭など、女医会独自の事業として展開を希望。

・石原副会長より

「子育て支援基金」へ「小児の救急医療について」申請を計画中。

2. ブロック別懇談会の件

・今年度開催候補地について、平敷理事より「群馬支部」の推薦があり、11月19日、20日、27日で正式に依頼する。近隣の新潟支部、長野支部もお誘いする。理事多数の出席を要請。今後の候補地についても推薦協力を依頼。

・「日本女医会〇〇支部」「〇〇県女医会」「日本医師会女性部会」の存在が各県で散見される。日本女医会の支部組織を消滅させないよう本部も留意していきたい。

3. その他

・大坪理事より

7月30日開催の「日本医師会第1回男女共同参画フォーラム」に多数の出席の要請。今回スピーカーに日本女医会のメンバーが入っていない。今後は日本女医会の存在をアピールできる発表の場を得るための方法を考える。

・山崎(康) 理事より

若い会員より総会の運営の仕方について質問があった。各々支部で決定した範囲で開催すれば良い事だが、改めて「総会の在り方」として検討する。

・山本(蒔) 理事より

配布資料「平成17年度宮城県女医会定時総会」について説明。日本生理学会「男女共同推進委員会」シンポジウムで発表の報告、「生理学女性研究者の会」の説明。

・村田理事より

7月2日開催された「埼玉支部総会」についての報告。

・内湯理事より

国際女医会議第8回西太平洋地域会議の申し込みは8月10日まで、多数の参加を要請。

以上



本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

「資料請求先」  
**武田薬品工業株式会社**  
 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤  
 指定医薬品 処方せん医薬品<sup>※</sup> **薬価基準収載**

**ブロプレス錠<sup>®</sup> 2.4/8.12**  
 (一般名:カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること。

(0503)



### 日本女医会吉岡弥生賞 推せんについて

平成17年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。

締め切り期日は、平成17年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
  - イ) 医学に貢献した現会員。
  - ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

### 日本女医会荻野吟子賞 推せんについて

平成17年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成17年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

### 地域医療奉仕活動に対する 助成のご案内

平成17年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成17年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会 事業部

## 第27回 日本女医会学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

### 1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

### 2. 助成金額

1件 30～50万円 (3件)

### 3. 申込手続

- (1) 応募資格  
入会継続3年以上経過した

日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

### (2) 助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

### (4) 締切期日

平成17年12月25日必着

### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の

上、平成18年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

### (6) 助成金の贈呈

平成18年5月開催の日本女医会総会の席上。

### (7) 受賞者の本会に対する義務

平成19年3月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙3枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

### (8) 送り先

日本女医会  
〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷2-8-7  
☎03-3498-0571

### 編集後記

第50回日本女医会定時総会が終わり、新たな年度が始まりました。橋本会長は巻頭言において、若い女性医師の就業率が低下しないような対策を行政がとり始め、さらに、一旦現場を離れた医師が復帰するときの再研修の場を大学が作る等の動きを述べられておられます。また、今回は男女共同参画に関する報告が二つありました。一つは日本医師会主催のフォーラムであり、もう一つは私が参加しました日本生理学会のシンポジウムです。女性医師の働く環境を改善し、もっと職業上の地位を高めていくべきとの考えが、次第に強くなってきていると感じます。日本女医会もこの男女共同参画推進の流れの中で、さらに積極的な活動をしていかなければならないと思います。(山本蒔子)

## 日本女医会誌

復刊第184号 2005年10月25日発行  
編集人 大坪公子  
発行人 橋本葉子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769  
http://www.jmwa.or.jp  
e-mail: office@jmwa.or.jp